

# ウキタ-フロントの宿場町



江戸には4宿あったが、千住宿といえば千住大橋が江戸庶民のイメージだった。錦絵などでも他の3宿は街並が多く描かれるが、千住宿では千住大橋が荒川(現在の隅田川)をまたぐ風景が象徴とされた

大好きな路地がいっぱいあるまち!

歴史のまち千住

1000mの散歩道

## 千住界隈マップ

旧千住新橋の元柱が千住で唯一の登れる富士山がある

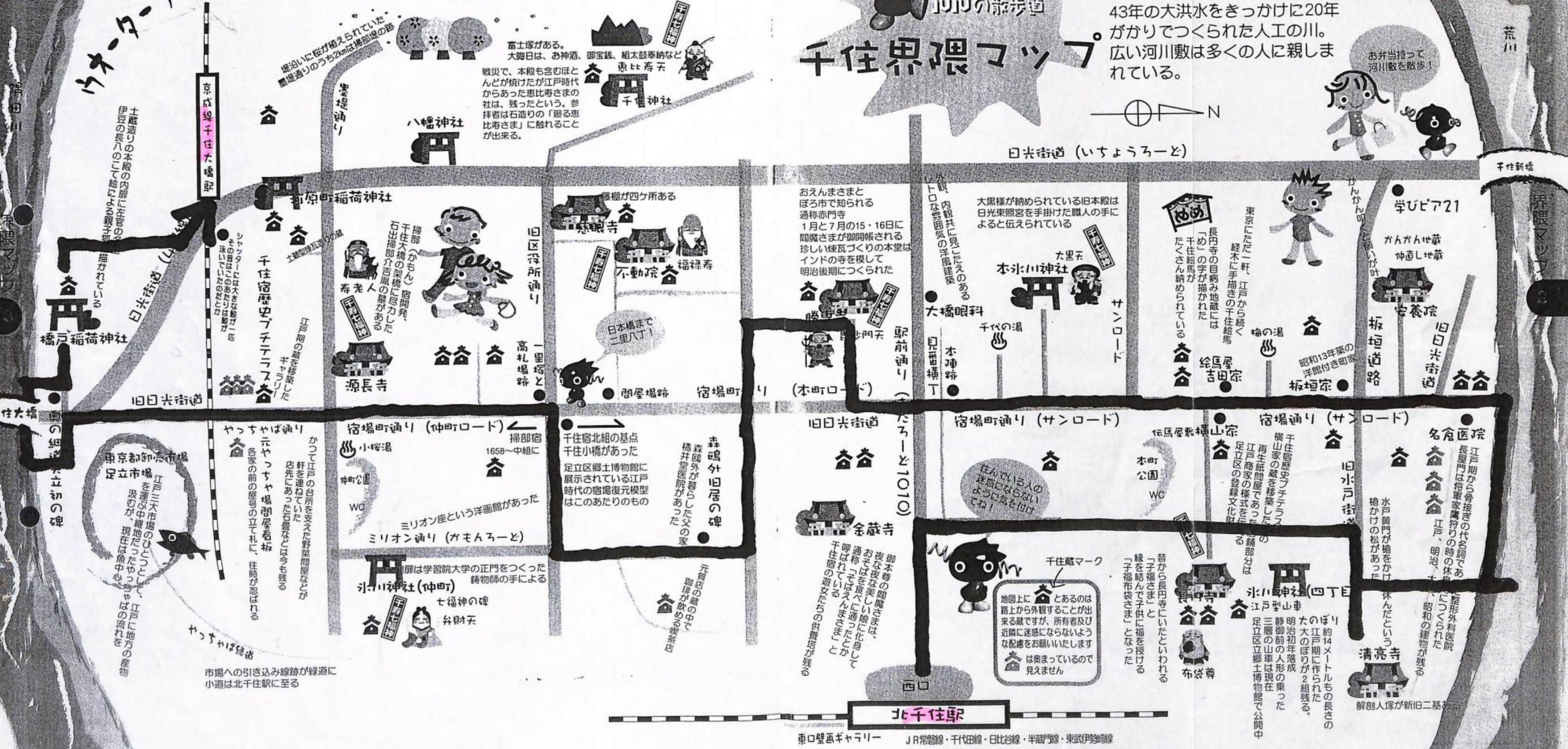
氷川神社(大川町)

### 荒川

岩淵水門から河口まで全長22km 区内8.3kmにおよぶ荒川は、明治43年の大洪水をきっかけに20年がかりでつくられた人工の川。広い河川敷は多くの人に親しまれている。



日光街道 (いちようろーど)

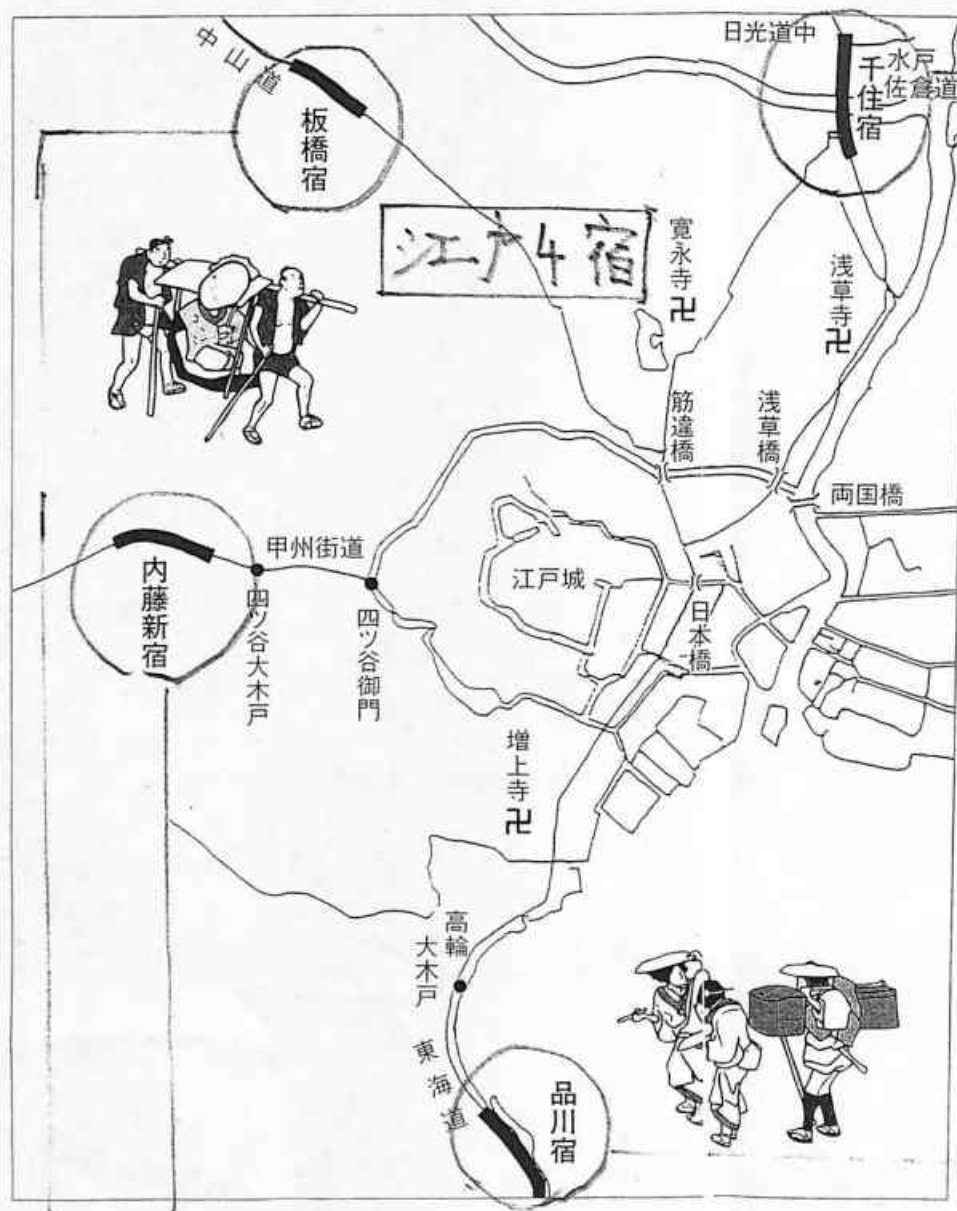


東口壁画ギャラリー JR常磐線・千代田線・日比谷線・半蔵門線・東武伊勢崎線

城名歩会3月9日例会「北へ、初宿・北千住を歩く」

「千住宿商店街ガイドブック」の引用





### 千住

千住宿は奥州街道・日光街道の宿場として、元禄年間(三年)の千住大橋の架橋を起点として整備され、慶長年間(新馬場)に指定されると宿場として発展しました。他の3宿と違って全く新しいプランの下に建設され、その完成は元禄の始頃といわれます。本宿五町、新宿一町(御町)、加宿一町(南千住)という構成で、他の宿場に比べて最大の長さ(入口)を誇っていました。上野方からくる日光街道(寛永寺宮御通)・浅草方からくる奥州街道(正式な日光街道は同一

路線)を合わせ、北へ向けて出て行く日光(奥州)街道の本道とそれから宿の北部で水戸街道がわかれ、なぜか千住ではそこを道分と呼びません。さらに地方道の下妻街道を分岐させます。このように多くの街道の集積点となっているのも千住宿の特徴です。明治になると北千住と南千住の2駅が設置されました。鉄道(当時日本鉄道今のJR)の駅が宿の中心に近いところに2駅もおかれたのも他にありません。その後の千住は駅とともに発展してきました。

### 品川

品川宿は東海道の初宿として日黒川(品川)川口の品川渡のところに設置されました。古来湊としてにぎわっていた町が宿場(古来の宿場は大井町)も兼ねるようになり、旅籠の数も四宿中最大で、いろいろな歴史の出来事(舞台)にもなりました。北本宿(一、南本宿四)で構成されていましたが、やがて北側に歩行者新道(三)が加えられ完成した姿になりました。北側の高輪には大木戸が設けられ山崎路(森の町)は千住の小塚原(馬場)と対をなすものでした。明治になると品川駅は宿のさらに北(高輪地区)に設けられ鉄道は山側に敷かれました。やがて繁華街も北の駅前地区に移りましたが、京浜急行の北品川駅、新馬場駅をもちよりの駅として、今日でも宿場の風情を残す商店街として発展しています。



### 内藤新宿

新宿は甲州街道の宿場として、元禄11年設置された新しい宿です。始め甲州街道の初宿は高井戸だったのですが、江戸から距離がありすぎるのでその中間に民間人の申請によって設置されました。内藤家の屋敷地を開発したので内藤新宿と呼ばれました。下町・中町・上町で構成され上町内(甲州街道)に当る青柳街道(成木街道)を分けます。その分岐点が新宿道分(伊勢丹前、道分交番)です。江戸に近いので飯盛屋が多く宿というより飯盛街を形成していた様です。参勤交代で通る大名もわずかに家でしたが甲州は直轄領で重要性が高かったため五街道の一つとされました。享保・明和の間50年間宿を停止されたこともありました。明治になると西側に新宿駅が設置されさらにそこに甲武鉄道(中央線)が入り、小田急、京王、西武が次々と新宿駅を起点とする町の中心は駅周辺へうつり、さらに淀橋浄水場が都庁となることさらに西側へシフトして行きます。旧宿場は四谷大木戸・伊勢丹間で地下鉄丸の内線の新宿御苑駅(大木戸口)・新宿(丁)駅間のややおちついたビル街を形成しています。

城を歩く会3月の定例会「北への初宿・北千住を歩く」	
日時=	平成18年3月22日(水曜日=雨天予備日29日)
集合=	10時 JR北千住駅北改札前
主要行程=	駅→槍かけの松跡→荒川土手→名倉医院→千住宿通り→伝馬屋敷跡→本町公園(昼食)→本陣跡→勝専寺→やっちゃ場跡→歴史プラステク(休憩)→芭蕉矢立の地→千住大橋→橋戸稲荷→京成駅
解散=	16時30分 京成千住大橋駅

山岸弘明

- はじめに(千住のいわれ)
  - 千住=千住最大の名利、勝専寺の千手観音に由来。ほかに諸説
  - 千住宿=日光街道、奥州街道、水戸街道、成田佐倉街道の第1宿。隅田川を挟んで南北に分かれるが今回は北千住。千住5町と掃部宿、橋戸川原町からなる。江戸時代、参勤交代、將軍日光社参路として繁栄、宿場史跡のほか松尾芭蕉史跡や江戸市民の台所「やっちゃば」も見どころ
  - 北千住駅=明治29年田端から土浦を結ぶ日本鉄道土浦線駅として誕生、同38年上野始発と改め、翌39年に国鉄(JR)に吸合された。
- 千住宿を通った大名行列、参勤交代の旅
  - 江戸4宿=江戸時代5街道の玄関口4宿
  - 千住宿=東北、関東東部諸藩参勤往還。仙台伊達、盛岡南部、弘前津軽、米沢上杉、奥州相馬、秋田佐竹、会津松平、佐倉堀田家らが通行
  - 参考=ほかの3宿を通った大名たち  
品川宿(実施済み)=九州、四国、中国、近畿、東海150藩。鹿児島島津、萩毛利、高知山内、佐賀鍋島、広島浅野、岡山池田、彦根井伊、尾張、紀伊家ら  
板橋宿(5月の定例会)=北陸、信越、関東西部諸大名。金沢前田、松代真田、高田榊原、長岡牧野家ら  
内藤新宿(1月に実施)=甲斐、信濃。高遠内藤、高島諏訪、飯田堀家
  - 参勤(往路)の旅は終点の日本橋まで2里、早朝スタート、華麗なセレモニーで江戸入り
- 長円寺目やみ地蔵
  - 新義真言宗。月松山照光院。本尊薬師如来。千住七福神の1つ布袋尊の寺
  - 創建は寛永年間、出羽三山湯殿山行者庵に始まる。
  - 目やみ地蔵=江戸後期寛延年間の作り。眼病に苦しむ人たちを救う。霊験あらたか。ご利益をえた人たちが奉納した手書き「千住絵馬」(後出)も並ぶ。



4) 水戸街道と清亮寺槍かけ松

- ① 右へ水戸街道。千住から取手、土浦をへて水戸へ。  
次の葛飾新宿(にいじゅく)で成田佐倉街道に、船橋からはさらに房総往還に分岐。
- ② 清亮寺=日蓮宗、甲斐久遠寺末。宿場入り口の大師
- ③ 水戸黄門の槍かけ松跡(現たちな幼稚園の往還側)  
水戸藩2代目藩主・水戸光圀が参勤交代(?=定府)のとき、この枝に槍をかけて休息したことにちなむとされる。昭和20年代まで道路を覆うように張り出していた。

5) 荒川土手(荒川を渡船場跡を遠望)

- ① 運動公園と変わった荒川河川敷を一望。JR線、営団線、東武線鉄橋が通り抜ける。  
橋から先は足立区足立、梅田、西新井など。西新井大師も近い。
- ② 正面は千妻街道渡船場、千住新橋は日光街道渡し跡。連接して2つの渡し船。  
江戸時代は大きい川に橋を掛けさせなかった。

6) 名倉病院(区指定文化財)

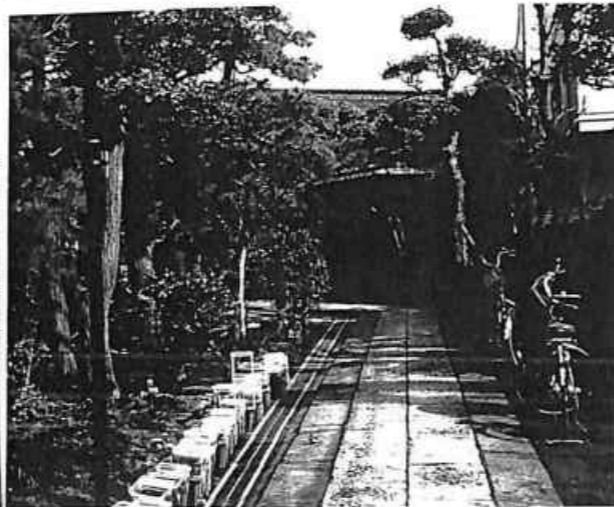
- ① 関東一円に知れ渡った骨つぎの名医。  
江戸や近郷村々から運ばれてくる骨折患者がひしめいたという。  
門前の広場は駕籠や大八車などの溜まり場。周辺には宿泊、加療のできる宿舎も。
- ② 長屋門=将軍日光社参の休憩所とされるが、門番とインターン生の居室か。
- ③ 式台玄関と庭=高い格式来客用玄関式台、隣接して主人玄関。庭を覗く。

7) 日光街道の分岐点

- ① まっすぐ進むと下妻街道
- ② 日光街道兼奥州街道は左折して千住新橋の渡船場へ。  
歴代将軍の日光参詣路。延べ19回のうち③代将軍家光が10回、②代秀忠、④代家綱など。  
最後の将軍社参⑫代家慶の供揃いは20万、幕府の所要経費は20万両におよんだ。



荒川土手



↑↓ 清亮寺



←江戸時代からの名倉医院



「槍掛の松」 又松山遺蹟寺  
 清亮寺の境内に、江戸時代から伝わる「槍掛の松」がある。この松は、水戸藩2代目藩主・水戸光圀が参勤交代のとき、この枝に槍をかけて休息したことにちなむとされる。昭和20年代まで道路を覆うように張り出していた。この松は、現在も清亮寺の境内にあり、その姿は江戸時代のままに保たれている。この松は、水戸藩の歴史を物語る重要なシンボルであり、多くの人々を魅了している。この松のそばには、水戸藩の歴史を物語る石碑があり、そのそばには、水戸藩の歴史を物語る石碑がある。この松のそばには、水戸藩の歴史を物語る石碑があり、そのそばには、水戸藩の歴史を物語る石碑がある。



- 8) 宿場町通り (北千住サンロード)
  - ① 往還に沿っておよそ2kmの宿場町が続く。江戸後期は家数2,300、本陣1、脇本陣1、旅籠55、人口およそ1万人を数えた。
  - ② 千住宿(1~5丁目=当初の宿場町)、掃部宿(仲町)の旧跡を楽しみながら千住大橋めざす。宿場町以来の町並み、改造店舗の奥にたたく現存蔵も見逃さない。
- 9) 槍かけだんご (かどや=03-3888-0682) 11時15分ころ通過
  - ① 前出清亮寺槍かけ松に由来した名物だんご店。あんことみたらし。小さいがうまい。昼休みに1本ずつお味見します。お楽しみに。
- 10) 地透き紙問屋松屋、横山家住宅と蔵 (伝馬屋敷)
  - ① 江戸後期の商家だが伝馬屋敷としていた。かなり改修されたが当時の面影を伝えるという。伝馬は大名行列などの荷役継ぎ立て所で問屋場ともいう。本陣とセットで宿場の中心となる。商家との兼業は難しいので、問屋場から商家に転業か?
  - ② 一段下がる帳場や2階格子窓は問屋場のなごり
  - ③ 敷地奥に明治9年建造の蔵。残念ながら非公開。
- 11) 手書き千住絵馬の吉田屋
  - ① 江戸中期から代々絵馬やあんどん、凧などを手書きで描く際物問屋
  - ② 作業場を覗く。運がよければご粉と泥絵の具で描く千住絵馬の作成シーンも。
- 12) 千住ほんちょう公園 (昼食)
  - ① 高札場跡=宿や村の盛り場や入り口に禁令などの立て札を立てる。由来記=慶長2年人馬引き継ぎ駅、寛永2年日光道中初宿、など宿の歴史を記す。
  - ② 大きな旧跡案内図で宿場全容を確認
  - ③ 持参の弁当で昼食。周辺に食堂もあります。
- 13) 秋葉市郎兵衛本陣跡
  - ① 宿場の中心となる大名専用休泊旅館。敷地360坪、建坪120坪、城、落邸に準ずる豪壮な書院、御殿造り。車寄せ、式台玄関、書院、上段の間、庭園などを備えた。
  - ② 東北諸藩の大名行列は、子、寅……戌年、隔年4月参勤のため3月は江戸をめざし、翌年4月は交代は国元への旅。ラッシュ時は連日入れ変わりに大名家を迎えた。
  - ③ 本陣周辺は宿場の中心地で旅籠や茶屋が立ち並んだ。
  - ④ 史跡看板 (1)千住本陣跡、(2)明治天皇行在所、(3)千住検見番所、(4)丁目辻の筋違

- 14) 勝専寺、日光道中徳川家御殿跡
  - ① 浄土宗。正式には三宮神山、大鷲院、勝専寺通称赤門寺=朱塗り門を許された格式の寺。
  - ② ここに日光社参将軍家御殿。上り下りの将軍家休泊施設を建造。②代将軍秀忠以下、家光、家綱が泊まり、途中焼失か江戸後期はない。
  - ③ 梵鐘と木遣り碑
- 15) 森鷗外旧居地 (都税事務所)
  - ① 森鷗外=夏目漱石とならぶ明治のベストセラー作家。
  - ② 幕末、津和野藩医師の子に誕生、幼く千住へ移る。ここは父の開業医橋井堂跡。東京医学校(現東大医学部)に通い、明治17年ドイツ留学までの少年、学生時代を過ごす。
- 16) 旧足立区役所前交差点 (区役所跡は改築中)
  - ① 再び旧道往還にもどる。交差点に4つの史跡
  - ② 問屋場、貫目改め所跡=貫目改め所は大名たちの荷物の重さをチェック。品川にも。
  - ③ 鳥見番所跡=将軍専用狩り場の保護、観察、禁猟の徹底、鶴やきじの飛来状況調査などが任務。
  - ④ 一里塚碑=里程の目印。道路の両側に塚を作り、盛土の上に榎が植えた。
- 17) 源長寺
  - ① 浄土宗。稲荷山勝林院。本尊阿弥陀如来。千住七福神「寿老人」を祀る。慶長年間、石出掃部亮開基、千住大橋を架橋した伊奈備前守の法号勝林院も名乗る。
  - ② 掃部宿旧跡延命地蔵=戦前までは毎月24日の縁日が賑わう。
  - ③ 石出掃部亮吉胤の墓=千住の開発者。仲町は掃部宿と呼ばれた。
  - ④ 境内に江戸、明治などの碑が多い。戦災跡も生々しい大木。
- 18) 「やっちゃんば」跡 (千住野菜市場)
  - ① 戦国時代にはじまり、江戸時代に近郷農家の野菜集積場として発展した。店頭で行われた「せり」の掛け声から「やっちゃんば」に。
  - ② 「ここは元やっちゃんば」看板、家ごとに当時の屋号やひとことメモ、ながめながら前進。



↓吉田屋 ↑宿場通り



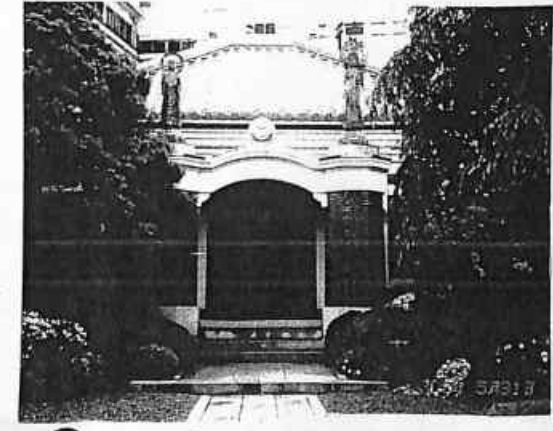
ほんちょう公園



横山家住宅



千住本陣看板



勝専寺



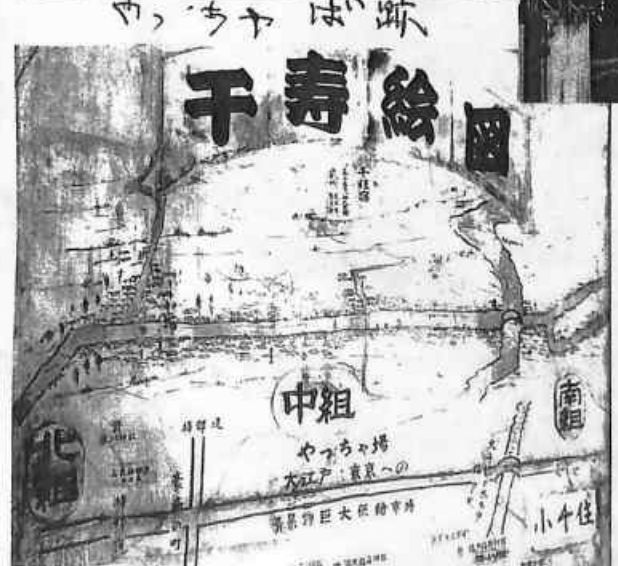
勝専寺赤内



森鷗外旧居



やっちゃんば跡



千住絵馬



立市場



Coffee Movie



足立市場 ↓源長寺 ↑問屋場跡



19) 千住宿プチテラス (トイレ、休憩)

- ① 伝馬屋敷だった横山家土蔵を利用、むかし使われた生活民具や陶磁器、絵画、工芸品などを展示している。
- ② 一息いれてラストスパート。

20) 中央卸売市場足立市場

- ① 現在の「やっちゃば」。東京都民の台所として知られる。これまで築地と巣鴨の中央卸売市場をみた。ここは築地のような華やかさはない。

21) 隅田川と千住大橋

- ① 江戸はじめまで暴れ川の利根川、治水のため主流を迂回させた。
- ② 千住大橋は徳川家康の江戸入り直後の文禄3年、伊奈備前守忠次を普請奉行に隅田川最初の橋として架けられた。多くの犠牲者を出す難工事で、熊野権現に祈願してやっと竣工にこぎつけたとされる。その後何度も架けかえや修復が行われ、現在のアーチ型鉄橋は昭和2年に完成している。
- ③ 千住大橋下の遊歩路で道の反対側へ抜ける。川は右から左へ。しばらくは流れを楽しむ。千住の橋戸河岸  
(1)橋戸橋で陸揚げされた産物 (2)河川の移り変わり (3)潮待ち茶屋 (4)千住節などの解説板も楽しい。

22) 芭蕉「奥の細道」矢立はじめの地

- ① 松尾芭蕉=江戸中期の代表的俳人。自然と人生を幽玄、閑寂の理念でえがいた。
- ② 元禄2年3月、深川を舟でたつた芭蕉は千住で上陸し、大勢の門人たちに見送られて、「奥の細道」の旅に立つ。  
行く春や 鳥啼魚の目は泪  
過ぎ行く春を惜しむと同時に、旅たつ者に人ばかりか鳥や魚までが別れを惜しんでいる
- ③ 芭蕉は奥羽、北陸をへて大垣に至る600里、半年間におよぶ行脚が始まる。道中の詠句をもとに「奥の細道」が編集された。

23) 橋戸稲荷と伊豆長八のこて絵

- ① 13世紀創建という橋戸地区の鎮守、守り神。江戸時代は千住大橋の通行者や船の荷卸し人夫などの信仰を集めた。
- ② 伊豆長八=江戸時代のこて絵名工。幕末文久3年拜殿の前扉に白狐夫婦とこども像を彫刻、代表作とされる。
- ③ 年1回公開、残念ながら今回はレプリカで我慢。

24) 京成千住大橋駅で解散

以上

↓芭蕉像



千住宿プチテラス



橋戸稲荷



←隅田川 ↑千住大橋

千住大橋と奥の細道

千住大橋は文禄3年(1594)、伊奈備前守忠次を普請奉行に、現在の千住大橋の位置に隅田川最初の橋として架けられた。千住大橋は、江戸時代を通じて、多くの犠牲者を出す難工事で、熊野権現に祈願してやっと竣工にこぎつけたとされる。その後何度も架けかえや修復が行われ、現在のアーチ型鉄橋は昭和2年に完成している。

千住大橋下の遊歩路で道の反対側へ抜ける。川は右から左へ。しばらくは流れを楽しむ。千住の橋戸河岸  
(1)橋戸橋で陸揚げされた産物 (2)河川の移り変わり (3)潮待ち茶屋 (4)千住節などの解説板も楽しい。